

## 平成 18 年度第 4 回 IODP 部会・執行部会（メール会議） 議事録

開催期間：2006 年 8 月 14 日（月）～8 月 16 日（水） 10：00～17：00

### 参加者（敬称略）

執行部会長：鈴木徳行（北海道大学）

執行部員：阿波根直一（北海道大学）荒井晃作（産業技術総合研究所）石橋純一郎（九州大学）

北里洋（海洋研究開発機構）佐藤時幸（秋田大学）佐柳敬造（東海大学）

白井正明（東京大学海洋研究所）山本啓之（海洋研究開発機構）

事務局：長橋 徹

欠席者（敬称略）：海野 進（静岡大学）山田泰広（京都大学）

### 議事次第

#### 【審議事項】

- 1) SASEC alternate委員 2 名の選出
- 2) SASEC宿題（IODP Visiting Ambassador Program）対応
- 3) SPC後任委員 2 名の選出（公募締切：8/18）
- 4) 第 2 回 IODP 成果報告会について
- 5) 国際 SAS パネル委員ローテーションのルール（案）の承認
- 6) 次回、執行部会の日程調整

#### 【報告事項】

- 1) 乗船研究関連
- 2) ワークショップ関連
- 3) 各専門部会報告など
- 4) その他

### 議事内容

#### 1. 審議事項

##### （1）SASEC Alternate委員 2 名の選出

- ・審議の結果、3 名の Alternate 候補が推薦され、鈴木部会長より依頼することとなった。
- ・交渉の過程で問題が生じた場合は、部会長、部会長補佐、事務局、現 SASEC 委員と相談して迅速に対応し人選を行う。
- ・Alternate の任期は SASEC 委員の公式任期と同じ 2 年とする。
- ・Alternate は有力な次期 SASEC 委員候補だが、そのまま委員になるということは確約しないこととする。

(2) SASEC 宿題 (IODP Visiting Ambassador Program) 対応

標記の件について、阿波根氏より説明がなされ、審議が行われた。

- ・本プログラムは、IODP-MI の E&O の一環であり、IODP キャンペーン国際版という位置づけである。
- ・AESTO の IODP 支援の一環として、一部についてこれを支援する方向で検討中。ただし、単独予算では困難なため、ホスト機関の協力（場合によっては、レセプション費等）を必要とする。
- ・プログラム発足時に Ambassador 人選の依頼が来る予定。人選は今後検討する。
- ・依頼するホスト機関、J-DESC による支援方法、他の行事との同時開催等について、次回の執行部会で検討する。

(3) SPC後任委員2名の選出（公募締切：8/18）

標記の件について、阿波根氏より説明がなされ、審議が行われた。

- ・北里氏より事務局宛に候補者2名の推薦が行われたことを、事務局より報告した。
- ・委員が審査プロポーザルのプロポーネントに含まれる場合（001）に依頼する Alternate も検討する。
- ・退任された委員を分野別に事務局で把握し、必要に応じて Alternate の依頼が出来るように準備するのはどうか。
- ・審議の結果、推薦された2名の候補者については、現在の SPC 関係者とも相談し、調整することになった。（鈴木部会長）

(4) 第2回IODP成果報告会について

- ・石橋氏より、第2回IODP成果報告会について現状報告がなされた（事務局より報告）。
- ・土曜日開催を基本として、10月23日 - 28日、もしくは11月8-11日の週で検討してする。
- ・開催日については、10/28を第1候補として、講演予定者と調整する。調整等は石橋執行委員にある程度一任する。

(5) 国際SAS/パネル委員ローテーションのルール（案）の承認

- ・佐柳氏より、標記、ルール（案）について、修正意見が出された。
- ・SAS委員退任後も、国内委員会委員に就任してもらうなど、SAS委員の経験と知識の継続および活用を図る方策について引き続き議論をする必要がある。
- ・各専門部会になるべく早く提示し、対応パネルの事情などを考慮して各部会の意見も取り入れられるようにする。
- ・修正意見に基づき事務局で修正を施した改訂版を配付し、一応承認を得た（但し、各専門部会へ送付前に、細かな字句の訂正等については今後関係者で打ち合わせを行う）。

(6) 次回、執行部会の日程調整

- ・事務局にて、地質学会後の9/19-29の平日で調整を進めることとする。

## 2. 報告事項

### (1) 乗船研究関連

荒井氏より、8月7日にNanTroSEIZEの乗船研究者募集の依頼を、科学推進部会および航海のco-chiefに対して行った報告がなされた。

### (2) ワークショップ関連

阿波根氏より、ESFが主催するワークショップ(Scientific Ocean Drilling behind the assessment of geo-hazard from submarine slides)へ、J-DESCより山田執行部員の参加を推薦したとの説明がなされた。(参加希望者としてSteering Committeeへ通知した)

同ワークショップは、ESFの主催であるが、IODPメンバー国からの参加者を数名受付けるとしている。

### (3) 各専門部会報告など

荒井氏より、7/21に開催された平成18年度第2回技術開発推進専門部会の報告がなされた。

Drilling, Borehole, Sampling(Loggingも含む)の3つに分けて、IODP Engineering Development Roadmapを作成した。

Vice Chairを日本から出す必要がある。

EDP委員も次の交代に向けて少し検討を始めたところである。早めに交代人員を確保していくことでお願いしている。民間企業からのボランティアの委員活動は、難しいものがありそうだという印象を受けた。また、CDEX経験者などが委員になるのが望ましいという意見もあった。

佐柳氏より、7/20に開催された平成18年度第1回[通算第4回]情報システムWGの報告が行われた。

SEDISの開発の現状と今後のスケジュールについて。

J-CORESの開発の現状と今後、特に本年度下北沖試験掘削での予定について。

Multi-data browsing systemについて、要望をCDEXに提出する。

「ちきゅう」のVCD lithology schemeの経緯、問題点など全体的な報告・説明があった。

阿波根氏より、8/2に開催された平成18年度第2回科学計測専門部会の報告がなされた。

部会長として、IMI札幌からJAMSTECに帰任された斎藤実篤氏が就任した。

乗船研究者アンケートを各航海終了後に行い、科学計測専門部会集計部分をHPにて公開したいとする提言がなされている。

乗船研究者サポートの一環として、乗船研究者に陸上施設の利用に関する情報をJ-DESCから事前に流すことが提案されている。

(4) その他

事務局より、8/11に開催された#8 SPC事前打合せ(会議)および8/5-6に実施したIODP大学&科学館キャンペーン(信州大学)の報告がなされた。

#8 SPC事前打合せ

主な審議事項について

1) FY08航海スケジュールについて

SPC会議の直前に(ミニ)OTFが開催され、「ちきゅう」及びSOVDのスケジュールの変更が検討された。

その結果がSPCへ提出される見込み。

2) Co-chief候補者の推薦について

候補者リストについては、昨年のSPC京都会議で作成済みで、追加の候補者の推薦を科学推進専門部に依頼。

3) Mission Implementationについて

巽SASEC副議長より概要が説明された。SPCへ最終的に提出される案は、現在、ワシントンでSASECの小委員会で議論されている(巽氏参加)。

4) FY08/09 Engineering Developmentについて

CDEXの川村氏より概要の説明がなされた。今後、EDプロポーザル(機器開発等)のランキングを夏のSPCで実施することになる可能性がある。今回は、EDプロポーザルの概要(仕組など)の説明だけになるかもしれない。

IODP大学&科学館キャンペーン(番外編)

外用:「自然のささやき」信州自然誌科学2006にJ-DESCとして参加。IODP展示ブースを解説し、IODPやJ-DESCのポスター、1/300の「ちきゅう」模型等を展示し、来場者に解説を行った。8/6には、講演会を実施(講師:北里氏)し、23名の参加者があった。本キャンペーンの様子については、J-DESC・HPへ掲載を予定。

事務局より、ISC2006でのJ-DESC展示ブース掲載用のポスターについて、ドラフト版を提示し、コメント・修正等の意見を伺った。

- ・修正意見を基に、文章の改訂、字句の修正等を施した。

以上